

1-③ 指導体制の充実

「外国語活動、外国語科」の校内研修体制を充実させるために

糸魚川市立根知小学校 田中 敦

1 研究の視点に関する実態

新学習指導要領が告示され、校長として「どのように外国語教育を進めていくか」が最大の課題となった。そこで当校では次の2点を中心として、校内研修体制を整備していくこととした。

- ① 当校の研究主題は「学級経営を基盤とし、一人ひとりが安心して自己の能力を發揮する子どもの育成」である。この研究主題との関わりをどのようにするかが、大きな課題となった。職員の熟議で、外国語教育を行う上で「誰もが安心して過ごせる学級でなければ、外国語での積極的なコミュニケーションもできないはずだ」という結論に達した。そこで外国語教育は学級経営をより充実させるための1つの手段であると考えた。
- ② 外国語教育に関して未熟な職員が多かったため、3・4年担任、5・6年担任だけの研修ではなく全職員で取り組む研修とした。

2 改善のための具体的な方策と取組内容

① 研修体制の充実

校長として組織的な校内研修体制を充実させるために、外国語主任（英語教育推進リーダー中央研修経験者）にリーダーシップをとらせ、校内研修の運営と全校体制で授業準備（ALTとの打合せを含む）を実施した。校内研修は短時間（30～45分）で集中的に実施し、指導方法や学習形態、指導案（A4版1～2枚程度）の書き方について研修した。管理職は勿論のこと、1・2年担任や養護教諭も当事者として参加している。

② 異校種等との連携強化

公開授業の指導案検討には、校長として学区中学校長や市内高等学校長に外国語担当教員の参加を依頼し、ねらいに迫る上で有効な授業展開や単元構成、教材教具、児童から効果的に英語を引き出す指導法、ALTの活用法等について教授してもらった。小学校教員が思いつかないう専門的な知見を得ることができ、特に児童の興味関心を持続させる手立てや児童の主体的な関わりを引き出す方法について、当校職員の指導力の向上と授業改善につながった。また、公開授業には小学校の教員だけではなく、市内の中高の外国語担当教員、教育事務所指導主事、市教委指導主事にも校長として参加を要請し、授業改善に向けた多くの示唆を得た。

③ 授業時数の確保

当校では1・2年生が英語に親しむために年間で数時間程度ALTと活動する時間を設け、英語のあいさつ等に慣れ親しんでいる。外国語の年間授業時数は、3・4年生で35時間、5・6年生で70時間を上限としており、3～6年生の35時間分の確保に苦慮した。そこで教頭、教務主任、研究主任と相談し、校長として学級担任に以下のように指示した。国語や算数等の授業時数の多い教科を中心に随時外国語と入れ替える時間を設けること、国語や算数の週1時間分を朝のモジュール方式（15分×3回）と入れ替えることで時数の確保に努めている。

3 取組の成果と残された課題

成果としては、当校児童は温かく和やかな学級の中で外国語の授業に積極的に取り組むようになってきた。話すことは、朝や昼休みに当校職員に英語で質問したり、公開授業で参観者にも英語で質問したりできるようになった。5・6年生は書くことについても、しっかりとした文字が書けるようになってきている。課題としては、外国語教育の中核となるリーダーをもう一人育てることと、小中連携だけでなく、中学校区内の小中連携も進めていくことである。